

スポーツは自分を進化させた



有限会社 リサイクリング産業
(東三河支部)
代表取締役
鬼頭 秀幸 さん

今回は趣味をたくさんお持ちの有限会社リサイクリング産業 代表取締役 鬼頭秀幸氏にお話を伺うということで、どんな趣味のお話が伺えるか楽しみに待ち合わせ場所に向かいました。

—鬼頭さんはいろいろなご趣味をお持ちと伺いましたが、どんなことをなさっているんですか？

鬼頭 そうですね、並べるといろいろやってきました。野球、サッカー、ゴルフ、陸上、水泳、バスケットなどスポーツはほとんどチャレンジしています。

—それだけやっているということは、子供の頃から活発なお子さんだったんですか？

鬼頭 実は4歳くらいまでは外に出ることも少なく、本当に内向的な子供でした。しかし4歳で豊橋に引っ越してからは、自然に囲まれた環境と、外での経験が子供を育てるという親父の方針のおかげで、ずいぶんと変わりました。

—外の世界を知ったわけですね。

鬼頭 そうなんです。例えば塀の上に登っていて見つかると、普通は怒られるものですが、うちの親父は塀に登っているだけでなく、その上を「走れ！」とか「飛べ！」というわけです。

—なかなか強力なお父様ですね。(笑)

鬼頭 それこそ小さい頃は「泣き虫、水虫、カンの虫」と虫が3つ揃った子供でしたから(笑)、いくら塀に登るくらいになっても、まだまだ怖がりの弱

虫でした。でも夜泣きがひどいと裏山に連れて行かれるなどの教育でしたから、だんだん強くなり、どんどん外の世界に興味がわいてきました。

—裏山というのもすごいですね。それは夜ですよ…。

鬼頭 もちろんです。あまりの怖さにトラの幻覚を見たくらいです。でもそのおかげで夜泣きはすっかり収まりました。

—トラ…ですか。それはショック療法みたいなものですよ。かなり効き目がありそうです…。

鬼頭 とにかく親父はパワフルで、影響を受けています。そうそう、動物嫌いだった私のために、犬や亀、オウムに九官鳥、最後にはサルを買ってきたこともあります。動物とのふれあいを体験させて動物嫌いを直そうということだったと思います。何度かサルと風呂に入ったこともありますよ。

—体験を通して、いろいろな思いをこめた教育をなさっていたんですね。



鬼頭 そのおかげか、ひ弱だった私が小学校6年生の頃には、ソフト、バスケ、陸上、水泳、サッカーとすべて選手になっていました。それに町内の運動会や相撲大会にはすべて出場していましたから、その頃から何でもチャレンジするという意識は高かったと思います。

—お話を伺っていると、本当にお父様を尊敬しているというのが伝わってきますね。

鬼頭 はい。父のことは尊敬しています。私が何事にも臆さずチャレンジしていけるようになったのも父のおかげだと思っています。

特にサッカーが好きです

—数々の経験の中で、特に好きなものは何ですか？

鬼頭 自分で考えてプレイできるサッカーが好きですね。

—サッカーのキャリアは長いんですか？

鬼頭 小学校からやっています。中学の時には自分たちでメニューを考えてトレーニングしていました。もちろん高校でもサッカー部。ほとんどサッカー経験のないメンバーでトレーニングをして、新人戦で1回戦を突破できた時は本当に嬉しかったです。何よりもサッカーの魅力は監督やコーチの指示

待ちではなく、自分たちで考えていくというのが私にあっていったと思います。

—今もサッカーをなさってるんですか？

鬼頭 息子がサッカーをやっているの、どちらかというと指導の側になりました。しかし、自分でやるのと教えるのでは難しさが違います。何のためにこのトレーニングをするのか、という目的意識を持たせるところから始めるのですが、技術ではなくメンタル面の指導というのは一朝一夕ではできません。私は指導といってもサポートでしたが、子供に教える難しさを体験しました。

—息子さんと一緒にサッカーができるというのはしあわせですね。現在も？

鬼頭 いえ、息子も中学生になりましたから、これからは親が教えるというレベルではなくなりました。

—そうすると、ご自身はまた何か新たな目標を設定したということですか？



鬼頭 去年はゴルフに懲りました。もともと自然が好きなので、コースに出るとのびのびできるんです。家や町並みの見えないロケーションのコースだと最高ですね。

—スコアなんかにも目標を設定するんですか？

鬼頭 腕前はそこそこでいいと思っています。そうですね、90前後出回れば一緒にプレイする人にも迷惑かけないし、楽しく回れますから。ただ、マナーを守らない人を見ると非常に気になります。

—何事も楽しむことと？

鬼頭 そうです。仕事面でもそうですが、自分が楽しむことで結果がついてくることって多いと思います。何かに挑戦するということは、そこで目標が発生する。その目標に向かって「こうしたらいいんじゃないか」「こうしたらうまくいくんじゃないか」といろいろ

考えるわけです。その中には自分のメンタル面をキープしたりという自己マネジメント能力も必要になる。つまり待ちの姿勢ではなく、こちらからアプローチしていく姿勢が大切なんです。これは仕事、遊び、そして人生すべてに通じるものだと思います。

—自分が積極的に取組むことって言うのは、結果のために様々な工夫と努力ができるものですね。

鬼頭 でも、ちょっとはりきりすぎて腰を痛めてしまったので、ほどほどということも学びました(笑)。

無謀もひとつの魅力です

—では、ゴルフの次にチャレンジ

することもそろそろ考えてらっしゃるんじゃないですか？

鬼頭 青年部会の中に元プロ野球の投手がいるんですが、今度彼の球に挑戦しようと思っています。

—元といえどプロの球を打つんですか？

鬼頭 打ってみたいといった方がいいでしょうか(笑)。以前、やはり青年部の仲間と剣道のすご腕がいるんですが、彼に1本とれるか挑戦してみたいと頼んだことがあります。

—剣道の経験もあるんですか？

鬼頭 ありませんが、1本なら何とか取れるような気がして、やってみたかったんです。

—無謀といえば無謀なチャレンジ…。

鬼頭 中学時代の先輩にもあたる人ですが、快く引き受けてくれて、場所まで用意してくれました。そこでやってみると…やはり強いですね、風邪気味だったという彼にボコボコにやられました(笑)。

—で、今度は野球？

鬼頭 はい。やってみたいと思ったことは実行することにしていきます。この行動

力は、やはり父から受け継いだものだと思っています。それも、弱いものを相手に勝ち続けるのではなく、強い相手に向かっていくことが大切なんです。話ははずれますが、今テレビで子供たちが見るヒーロー、例えば何とかレンジャーとかって何人もいて悪者一人をやっつけるじゃないですか。あれはよくないと思うんです。やはりやるなら1対1で戦うべきです。チームプレイというのは同じ人数でやる、同じ目標に向かってプレイするというのが基本です。だから、ああいうヒーローを見るとどこか違和感がありますね。

—何だか鬼頭さんが正義の味方って感じがします。もちろんこれからも1つずつ目標をクリアしながらどんどん自分のチャレンジの場をひろげていらっしゃるんでしょうね。

鬼頭 そのつもりです。趣味も仕事もふてくされずに楽しむのがモットーですから。

今回は、とても前向きに様々なことにチャレンジする鬼頭氏のお話を伺うことができました。目標を達成すると、また次の目標を見つけてというパワーに圧倒されながら楽しい時間がすごすことができました。今後の鬼頭氏のご活躍をお祈りしながら今回のインタビューを終了させていただきます。元プロに挑んだあとにでもまたお話が伺えることを楽しみにしています。

